

連合会名：全国喫茶飲食生活衛生同業組合連合会

1. 業界(組合員)の経営環境について

業界(組合員)の経営資源の強み
<ul style="list-style-type: none">・ 経験と高い技術・ くつろぎと癒しの空間・ 小回りが利き、独自性を発揮しやすい・ 地域との共生、地域活動に貢献・ 同業者との絆
業界(組合員)の経営資源の弱み
<ul style="list-style-type: none">・ 経営基盤が脆弱、後継者不足もあり事業承継が困難・ 困難な人材の確保・ 大手チェーン店、コンビニとの競合激化
業界(組合員)を取り巻く環境(競合、顧客、マクロ環境など)の良い状況
<ul style="list-style-type: none">・ 昔ながらのフルサービスによる喫茶店への回帰・ 珈琲は体に悪いイメージであったが、学会等の研究結果から健康に良い飲物と評価・ 珈琲の飲料量が安定(一人1週間当たり杯数) 2016: 11.09杯 2018: 10.62杯 2020: 11.53杯(全日本コーヒー協会調べ)・ サードウェーブの継続 (シングルオリジン、浅煎り、ハンドドリップ、ダイレクトトレード)
業界(組合員)を取り巻く環境(競合、顧客、マクロ環境など)の悪い状況
<ul style="list-style-type: none">・ コンビニ、自販機による低価格珈琲の売り上げ増加・ 顧客の高齢化と人口減少・ 大手コーヒーチェーン店の出店拡大・ キャッシュレス化、IT化の立ち遅れ・ 新しい生活スタイルの定着による人流の減少・ 世界的な気候変動により珈琲豆などの原材料が高騰・ 原油高による電気料金などの値上がり

2. 振興指針に定められた事業の取組状況等

組合で策定する振興計画の作成に当たっての指導、振興計画の取組状況等の把握
<ul style="list-style-type: none">・ 各県組合への計画策定に関するフォローアップ・ 各県組合の取組み良好事例を把握し、情報を共有
組合への支援事業の取組状況
<ul style="list-style-type: none">・ 調理講習会、HACCP、インボイス制度などに関する研修会の実施・ 生産性向上に関するセミナー等の実施・ 組合加入勧奨パンフの作成・ 障害者差別解消法に基づく、障害者受け入れ態勢の整備・ インバウンド受け入れ態勢の再構築・ 受動喫煙防止対策に関する事業
特に成果の上がった事業(取組)
<ul style="list-style-type: none">・ HACCP対応の推進・ ガイドライン遵守による衛生管理の徹底・ 受動喫煙防止対策に関する対応
取組が難しい事業
<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍の影響による売り上げの回復が遅れ、また、経営者の高齢化に伴い、施設及び設備に対する投資意欲の衰退
改善方策
<ul style="list-style-type: none">・ 政府や公庫などからの各種助言、援助の有効活用